

McDonald's CSR Report 2018



Contents

01 企業概要・企業情報・企業理念・
編集方針・目次

02 Top Message

03 Scale for Good

04 持続可能な社会を目指して

 食の安全・安心

 雇用情報

 環境情報

 社会貢献

08 Food

 食材の管理とサプライヤー基本原則

 農場から店舗までの品質保証体制

 情報開示

11 People

 ピープルビジネス

13 Community

 社会貢献活動

15 Planet

 廃棄物対策・環境保全

 エネルギー対策・店舗環境

17 McDonald's & SDGs

18 第三者意見

会社概要

日本マクドナルド株式会社

所在地 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
電話 03 (6911) 5000 (代表)
設立 1971年（昭和46年）5月1日
資本金 1億円
事業内容 ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店舗数 2,899店
売上高 5,242億円（直営店・フランチャイズ店合計売上）
従業員数 正社員／2,213名（役員・契約社員などを除く）
パートタイマー／約15万名（直営店・フランチャイズ店合計）

(2018年12月31日現在)

企業情報

経営理念、会社概要、沿革・歴史、等は日本マクドナルドホールディングス株式会社ホームページの企業情報をご確認ください。

企業情報 <http://www.mcd-holdings.co.jp/company/>
コーポレート・ガバナンス <http://www.mcd-holdings.co.jp/ir/governance/>

企業理念

レストラン・ビジネスの考え方 = QSC&V

ワールドサービスレストランとして最高の店舗体験の提供により、お客様にとって「お気に入りの食事の場とスタイルであり続けること」をミッションとします。そしてQSC&V (Q:品質、S:サービス、C:清潔さ、V:価値)をレストラン・ビジネスの理念としそのミッションを達成します。 <http://www.mcdonalds.co.jp/company/outline/rinen/>

編集方針

本レポートは、日本マクドナルドが取り組んでいるCSR（企業の社会的責任）について、その活動内容を報告しています。マクドナルドのCSRおよびそれに関連する取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、持続可能な社会につながればと考えてあります。

報告の対象範囲ほか

報告対象組織 日本マクドナルド株式会社（一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む）

報告対象期間 2018年1月1日～2018年12月31日

報告対象分野 社会的責任関連全般（経営・社会・環境）

作成部・連絡先 コミュニケーション&CR本部

〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー

電話 03 (6911) 5000 (代表)

Top Message

私たちのビジネスは安全で安心できる高品質で美味しい商品を、快適な店舗環境で提供することです。その当たり前なことを着実に行なうことが私たちの責任でありビジネスの原点と言えます。しかし、私たちのビジネスは社会と言う背景があつて初めて成り立つものです。マクドナルドは、全世界100カ国以上でビジネスを行っており、日本でも約2900店舗15万人以上のクルーが働き、毎年のべ14億人以上のお客様に来店いただいており、そのビジネスの展開において大きな社会的責任があります。

2018年に世界が抱える様々な課題に対し取り組むグローバル方針「Scale for Good」を発表しました。日本マクドナルドにおいても2019年3月の時点で、具体的に注力する3本柱「ファミリーへのコミットメント」、「持続可能な食材の調達」、「パッケージ&リサイクル」を策定しました。それに基づき、具体的な対応を検討し、従来行ってきた食の安全に対する対応、社会貢献活動、環境対応、そして人への対応などとともに、マクドナルドの持つ強みとスケール（規模）を活かして持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。そして、これらの活動はSDGs（Sustainable Development Goals）に裏付けられるものとなっています。

私たちは、今と将来を見据えた企業の社会的責任を理解し、着実に実行することが社会環境、そして地球環境に貢献することであると考えています。



Susan A hand holding a yellow pen is shown writing the name "Susan" in cursive script. Below the signature, the text reads:
日本マクドナルド株式会社 代表取締役会長
サラ・エル・カサノバ

Scale for Good

— より良い未来のために みなさんとともに —

マクドナルドの責任

世界100カ国以上で親しんでいただいているマクドナルド。日本でも約2900店舗で15万人以上のクルーが働き、毎年14億人以上のお客様にご来店いただいています。毎日多くのお客様をお迎えし、お食事をご提供している私たちマクドナルドには、大きな責任があります。それは、世界が抱える社会的課題や環境問題に取り組むこと。この責任は、世界中で親しんでいただいている私たちの強みとスケール（規模）を活用すれば、必ず果たせるはず。私たちはそう考えます。日本マクドナルドは、「ファミリーへのコミットメント」「持続可能な食材の調達」「パッケージ&リサイクル」を優先する3つの柱として、持続可能な社会の実現に向けて取り組んであります。しかしこの取り組みは、私たちだけでできるものではありません。皆様のご協力があってはじめて実現できるものです。

Using our "Scale for Good".

より良い未来のために、みなさんとともに。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/scale_for_good/



ファミリーへのコミットメント **Commitment to Families**

http://www.mcdonalds.co.jp/company/scale_for_good/family/



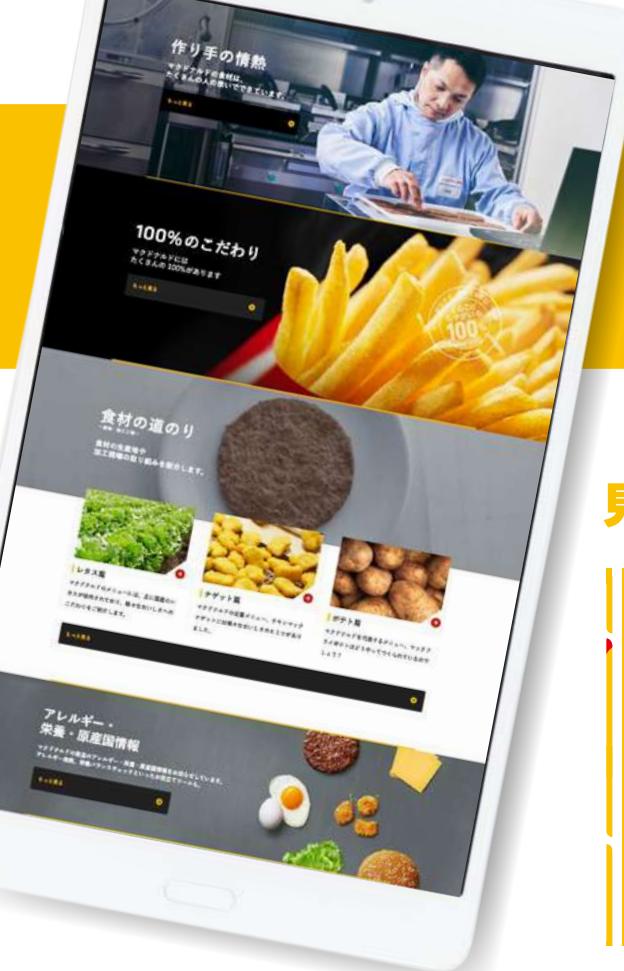
持続可能な食材の調達 **Sustainable Sourcing**

http://www.mcdonalds.co.jp/company/scale_for_good/sourcing/



パッケージ&リサイクル **Packaging & Recycling**

http://www.mcdonalds.co.jp/company/scale_for_good/packaging/



持続可能な社会を目指して 食の安全・安心



見える、マクドナルド品質

作り手の情熱

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/tsukurite/>

100%のこだわり

http://www.mcdonalds.co.jp/safety/good_quality

食材の道のり

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/factory>

アレルギー・栄養・原産国情報

http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/

食材に関する取り組み

品質改善の取り組み

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/taskforce/>

安全・安心への取り組み

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/>

トランス脂肪酸への対応

http://www.mcdonalds.co.jp/safety/trans_fat/



食の安全・品質サミット

2018年10月10日、第4回「食の安全・品質サミット」を開催。「フードセーフティカルチャーの進化と最高品質の追求」をテーマに、食の安全のさらなる進化と、お客様への最高品質の提供に焦点を当て議論を展開。マクドナルドの食を支える関係企業が集結し、3つのコミットメントを策定しました。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2018/1030a/>



产学官の協働

「食の安全の持続的な確保を目指すため、次世代の食の安全専門人材を鹿児島大学と共に育成しております。このプログラムは農林水産省、鹿児島県、食品安全マネジメント協会の支援のもと、产学官で連携し進めてあります。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2018/0126b/>



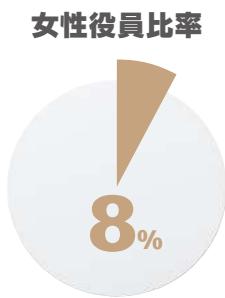
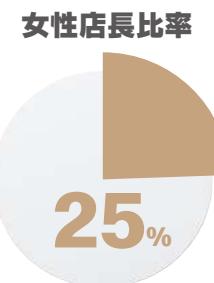
持続可能な社会を目指して
雇用情報



2018
障がい者雇用比率
2.2%

2018
クルー人数
約150,000名

2018
出産・介護休暇制度
利用者数
50名



2018
育児短時間勤務制度
利用者数
19名

2018
全社員
月間残業時間
18.0hr





持続可能な社会を目指して

環境情報

2018

全店の食品及び
容器包装廃棄物量

135,600トン
対前年比 **+6.8%**

食品廃棄量	
売上100万円あたり 90.5kg	お客様1人あたり 32.9g
対前年比 +2.4%	対前年比 +4.8%
※外食業界食品廃棄量目標 108kg	
食品リサイクル率	
53.4%	
※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む	

2018

全店の
エネルギー使用量

206,784キロリットル
原油換算
対前年比 **▲2.3%**

お客様千人あたりの使用量	
電気 463.9kWh	水道 3.4トン
対前年比 ▲5.1%	対前年比 ▲15.0%
ガス(都市ガス換算)	
22.7m³	対前年比 ▲10.6%

2018

ハッピーリボンプロジェクト

〈環境省「プラスチック・スマートキャンペーン」連携プログラムの一環として実施〉

遊ばなくなつたハッピーセットのおもちゃを全国のお店で回収し、
お店のプラスチックトレイにリサイクル。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2018/1107b/>
<http://plastics-smart.env.go.jp/cases/?id=44>

2018
環境認証



バーガー類を包む紙や紙カップなどお客様に提供する紙製容器包装類は、2018年末現在、ほぼ100% **FSC®認証** を取得した紙を使用しています。(FSC@ N002365)

2015年から徐々に店舗で使用しているパーム油を **RSPO認証** 油への切り替えを進めており、2018年末現在、店舗で使用しているフライオイルについてはRSPO認証を取得しています。

ホットティーバッグは **レインフォレスト・アライアンス認証** を受けた農園の茶葉を使用しています。

フィレオフィッシュに使用する白身魚は、科学的根拠に基づいて漁獲された持続可能な白身魚を使用し、**MSC認証** 取得に向けた取り組みを進めています。

2018

第5回「食品産業もつたない
大賞」において「PDCAシス
テム活用による省エネルギーシ
ステム」で審査委員長賞を受賞。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2018/0129a/>



持続可能な社会を目指して 社会貢献



2018
チャリティ
ドナルド・マクドナルド・ハウス支援
店頭募金額
10,422万円
災害支援活動・義援金
1,580万円
<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/donald/>



受講児童・生徒数
のべ**187,517**名
http://www.mcdonalds.co.jp/company/ne_mc_support/

Food

Food Safety

Food Quality

食材の管理とサプライヤー基本原則

マクドナルドの食材は、国内外のサプライヤーで製造され、マクドナルドの店舗に供給されています。

マクドナルドでは、サプライヤーの製造工程と食材の品質を管理するプログラムを定め、
安全で高品質な食材の確保と店舗への供給に努めてあります。

サプライヤー基本原則

サプライヤーとのパートナーシップは、マクドナルドの定める「サプライヤー行動規範」が基本原則で成り立っています。この行動規範には、関連法令の遵守、人権、労働環境、環境保全、事業運営の完全性などの遵守を定めており、サプライヤーにはこの行動規範に合意いただいてあります。行動規範に関する具体的な内容は「SWA:サプライヤー職場環境管理プログラム」として定めており、これらが実行されていることを検証するため、年1回の監査を行っています。 www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/

サプライヤー行動規範

関連法令の遵守	人権	労働環境	環境保全	事業運営の完全性
---------	----	------	------	----------



サプライヤー職場環境管理プログラム（SWA）

行動規範の着実な実行と維持のため、監査制度を導入したプログラム

食材の製造工程管理

マクドナルドの追加品質基準
(トレーサビリティシステム/
危機管理/品質検査プログラムなど)

GFSI承認スキーム
(FSSC2200/BRC/IFS/
SQF/JFS/ASIA GAPなど)

GMP/HACCP

関係法令・規制要求事項

食材の品質管理

食材の品質は、サプライヤー製造工場における最終製品の試験分析、官能評価によって確認された製品が出荷されます。また、マクドナルドでは、サプライヤーにおける管理の有効性を確認するため、定期的に製品を抜き取り検査し、微生物、理化学的な試験分析や官能評価を行い、製品の品質保証に努めています。

Food



農場から店舗までの品質保証体制

マクドナルドでは、農場から店舗まで国際規格に基づいた独自のマネジメントシステムをグローバルで展開、実行しており、それぞれの有効性を検証するために第三者による監査プログラムを導入しています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/>

トレーサビリティ

原材料から最終製品までの全工程を対象に生産履歴の追求を可能にする「トレーサビリティシステム」を構築しています。これにより万が一何かトラブルがあった場合にも、速やかな原因追及と対策が可能になります。

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/trace/>

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/trace1/>

マクドナルド品質・食品安全マネジメントシステム



農場

MGG

- GAP (農場)
- 残留農薬のモニタリング管理
- アニマルヘルスウェルフェア など



加工

SQMS

- HACCP (製造)
- GMP
- 製品検査プログラム など



物流／倉庫

DQMP

- HACCP (物流)
- GWP・GDP
- QIP (品質検査プログラム) など



店舗

ROIP

- HACCP (店舗)
- GCP
- SSOP など

監査プログラムによるシステムの有効性確認

リサイクルでうまれたトレイです

Food

情報開示

商品をおいしく安心して召し上がっていただくために、
商品に関する情報をホームページの「見える、マクドナルド品質」で公開しています。
http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/



原産国情報

マクドナルドの原産国情報は、商品を構成する主要原材料の原産国、最終加工国をお知らせしています。
http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/



アレルギー情報

マクドナルドのアレルギー情報は、すべての原材料を精査した結果によるもので、アレルギー物質の量の多少に関わらず、すべて表示しています。原材料の仕様変更や製造・調理工程における交差混入など、常に最新の情報を提供しています。

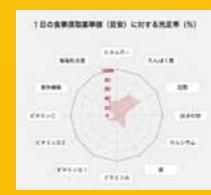
http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/



栄養情報

マクドナルドの栄養情報は、標準的な製品仕様と調理から「食品表示基準」(食品表示法)に基づく栄養分析の数値を基本とし、一部の食材は「日本食品標準成分2015年版(七訂)」(文部科学省)を引用して作成しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/safety/allergy_Nutrition/



栄養バランスチェック

1日に必要な栄養のうち、マクドナルドメニューがどれだけ補えるか(充足率)をチェックすることができます。管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明なども提供しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/quality/basic_information/check.php

リサイクルでうまれたトレイです

Employee Value Proposition エムプロイー バリュー プロポジション

マクドナルドでは「フレキシビリティ」「フューチャー」「ファミリー&フレンズ」の3つの観点から、マクドナルドならではの働き方を提案し、クルーとして働くことで得られる価値にコミットメントしています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/mcdonalds/index.php5>

キャリアアップ

マクドナルドでは決められたキャリアパスは存在しません。成長やキャリア開発の機会を提供し、一人ひとりの職場でのチャレンジやキャリアアップを全力でサポートしています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/career/index.php5>

人事評価制度（PDS）

「人の成長が企業の成長をつくる」という考え方から、個人と企業の成長を実現する人事評価制度として「PDS(Performance Development System)」が生まれました。業績達成と個人の成長とを連動させた目標とアクションプランを設定し、日々の実績の中で、目標達成レベルと行動レベルに基づいた評価を実施します。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice06.php5

教育機関（ハンバーガー大学）

「ハンバーガー大学」は、最新の教育理論及び手法を用いて、人材育成と、そのシステム開発に取り組む専門教育機関です。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/university/>

People ピープルビジネス

企業の成長を支えるのは「人」そのものであり、その意味でマクドナルドは「ピープルビジネス」であると考えています。それ故に、日々の仕事を通して従業員のあらゆる成長とキャリアの可能性を全力でサポートしています。



People

ー ダイバーシティ&インクルージョン

性別、年齢、さまざまな個性、バックグラウンドをもった多様な人材が、個々の強みを最大限発揮し、ワンチームとなってビジネスの成長に貢献できる職場の実現を目指しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice15.php5

ー 障がい者雇用

多くの店舗でさまざまな障害をもったクルーが活躍しています。一人ひとりが尊重され、多様な個性と能力を発揮できる組織づくり、環境の提供に努めています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/employee/>



ー AJCC (All Japan Crew Contest)

店舗で働く「クルー」が誇りと目標を持ち、技術やサービス、リーダーシップの向上を図るプログラムがAJCC(オール・ジャパン・クルー・コンテスト)です。毎年全国約14万人のクルーが職場の分野ごとに日頃身に付けた技術やホスピタリティを競うコンテストで、店内戦、地区予選などを経て、全国から勝ち上がったクルーによって決勝戦が行われます。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/university/ajcc/>

ー 雇用環境 (ワークライフバランス)

フレックスタイムや在宅勤務、年次有給休暇取得の推進、出産、育児、介護の支援対策として「育児・介護休暇制度」、「短時間勤務制度」、「復職支援プログラム」など仕事と家庭の両立が無理なくできる雇用環境を設けています。

http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/fresh/our_voice/voice01.php5





チャリティ活動

この活動の中心となるのが、「ドナルド・マクドナルド・ハウス」への支援活動です。「ドナルド・マクドナルド・ハウス」は家から遠く離れた病院で、病気と闘う子供とその家族のために、病院のすぐそばに建てられた滞在施設です。店頭での募金はドナルド・マクドナルド・ハウスの運営を行う「公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」に全額寄付されます。又、マックハッピーテーのようなさまざまなイベントを企画し、寄付を募る活動を展開しています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/donald/>

ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンHP

<http://www.dmhcj.or.jp>

教育支援

小学校、中学校、高等学校と、子供の成長段階に応じて、食育から店舗実習まで、ハンバーガーレストランという業態を活かしたさまざまな教育支援プログラムを用意しています。



教育支援

子供たちが楽しく食べるよろこびを知り、食に関する正しい知識と習慣を身につけてもらうため、食育支援活動を行っています。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/ne_mc_support/



キャリア教育支援

「ビープルビジネス」を掲げるマクドナルドには、人を成長させる環境が整っています。全国のマクドナルド店舗では、その環境を活かした学びの場を広く提供。地域の子供たちの教育と成長を支援しています。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/mc_discovery/

Community

社会貢献活動

子供たちの健全な成長を願って社会貢献活動を実施しています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/>

Community

スポーツ支援

学童野球と少年サッカーを中心とする大会の支援活動を行っています。大会以外でも全国大会出場チームの地元店舗での団結式や、オリジナルの野球・サッカーハンド帳の提供など、子供たちの心とからだの健全な成長を願つて活動しています。



高円宮賜杯 全日本学童軟式野球 マクドナルド・トーナメント

「小学生の甲子園」と呼ばれ、全国約12,000ある学童野球チームの頂点を決める、学童球児にとって最大規模の大会です。日本マクドナルドは30年以上、大会の特別協賛としてサポートを続けています。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/sport/mcd_tournament/



JFA 全日本U-12 サッカー選手権大会

12歳未満の選手で構成される日本サッカーアカデミー第4種チームを対象とし、小学生年代最大の大会です。日本マクドナルドは、2011年から大会をサポートしています。

<http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/sport/football/>

地域貢献

マクドナルドでは“あなたの街とともにあるマクドナルド”として、街の美化運動や防犯など、安全で安心な活気ある街づくりを目指し、地域に貢献する活動を積極的に行ってています。

http://www.mcdonalds.co.jp/company/community/community_relations/



安全笛

地域の教育委員会や警察等と協力して、全国の小学校1年生へ安全笛を贈呈し、地域の防犯・交通安全対策に協力しています。2018年は反射板付きの笛にバージョンアップさせ、交通安全もサポートしました。



子供110番の家

地域の子供たちの安全を守るため、子供が危険に遭遇した際や困ったことが起きた際などに、マクドナルド店舗に駆け込んで助けを求めることができる「子供110番の家」の活動を推進しています。又、子供110番の家を親子で学んでいただける「子供110番教本」を警視庁生活安全課と作成し、東京都の新入学1年生約11万人に配布しました。



クリーンパトロール

地域美化を目的に、全国各地の店舗で「クリーンパトロール」を実施しています。又、行政や市民団体主催の清掃活動にも積極的に参加し、地域の皆さまとともに、美しい街づくりに努めています。



子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力しています。各都道府県が発行している「子育て支援パスポート」を全国のマクドナルドでご提示いただぐと「チーズバーガーのハッピーセット」を特別価格で提供します。



ハロードナルド

マクドナルドでは、子どもたちの日常の生活中に必要なルールやマナーを伝えるプログラム「ハロードナルド！」を全国で実施しています。



Planet

廃棄物対策・環境保全

廃棄物対策の基本は、無駄な廃棄物を出さない「発生抑制」にあることを念頭に、店舗運営システム等の改善を進めると共に、使用的な原材料を検討することにより環境負荷を縮小する努力を続けています。

2018年廃棄物量状況

全店の食品・容器包装廃棄物量

全体	食品	紙製	プラスチック製	梱包物・その他
135.6 千t/年	46.4 千t/年	34.6 千t/年	5.4 千t/年	49.2 千t/年
対前年比 +6.8%	対前年比 +10.0%	対前年比 +4.8%	対前年比 +1.9%	対前年比 +6.3%

お客様1人あたりの食品・容器包装廃棄物量

全体	食品	紙製	プラスチック製	梱包物・その他
96.2 g/人	32.9 g/人	24.5 g/人	3.8 g/人	34.9 g/人
対前年比 +2.4%	対前年比 +4.8%	対前年比 +0.4%	対前年比 ▲2.6%	対前年比 +2.0%



環境保全

環境認証取得状況

お客様に提供する紙製容器包装のFSC®(森林管理協議会)認証は2018年末現在ほぼ100%を取得。フライオイルで使用しているパーム油のRSPO認証、ホットティーバッグのレインフォレスト・アライアンス認証、は2018年末現在取得済。



エネルギー対策・店舗環境

地球温暖化・気候変動の問題に伴う、エネルギー対策は重要な課題です。マクドナルドは、「地球のことを考えて行動する」という環境理念の下、無駄なエネルギーを出さないことを念頭に店舗でのエネルギー管理、エネルギー効率を考えた施設・設備投資を推進しています。

Planet

2018年エネルギー使用状況



全店の種別エネルギー使用状況

電気	ガス	水道
654.2 百万kWh/年	32.0 百万m ³ /年	473.4 万トン/年
対前年比 ▲1.1%	対前年比 ▲7.0%	対前年比 ▲13.5%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

電気	ガス	水道
463.9 kWh/千人	22.7 m ³ /千人	3.4 万トン/千人
対前年比 ▲5.1%	対前年比 ▲10.6%	対前年比 ▲15.0%

全体のエネルギー使用量

原油換算値	原単位原油換算値	温室効果ガス排出量
206,784 キロリットル/年	0.2493 キロリットル/千レジカウント	48,569 t-CO ₂ /億レジカウント
対前年比 ▲2.3%	対前年比 ▲6.2%	対前年比 ▲13.3%

店舗環境

マクドナルドでは、お客様に快適でくつろげる店舗環境を提供するために、客席の状況に則した木目の細かい空調の温度調整やON/OFF管理を実施すると共に、更に健康配慮の観点から2014年8月から全店禁煙としています。お客様への配慮と共に、店舗で働くクルーを含む従業員の健康にも配慮した対応となっております。

<http://www.mcd-holdings.co.jp/news/2014/release-140815a.html>



McDonald's & SDGs 日本マクドナルドとSDGsの関係

<p>1 貧困をなくす</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な食材の調達 	<p>2 飢餓をゼロに</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な食材の調達 	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●ドナルド・マクドナルド・ハウス支援 ●店舗環境（全店禁煙） ●スポーツ支援 	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●食育支援 ●防犯安全教室 	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●ダイバーシティ & インクルージョン 	<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●環境認証を通じた環境保護
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー対策 	<p>8 働きがいも経済成長も</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●ピープルビジネス 	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物対策 ●ハッピーセットのおもちゃリサイクル 	<p>10 人や国の不平等をなくす</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●ピープルビジネス 	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●ドナルド・マクドナルド・ハウス支援 ●地域貢献 ●パッケージ&リサイクル 	<p>12 つくる責任つかう責任</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●パッケージ&リサイクル ●持続可能な食材の調達 ●メイド・フォー・ユー
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー対策 ●パッケージ&リサイクル ●持続可能な食材の調達 	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な食材の調達 ●パッケージ&リサイクル 	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な食材の調達 ●パッケージ&リサイクル 	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●コーポレート・ガバナンス 	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>  <ul style="list-style-type: none"> ●すべてのステークホルダーとのパートナーシップ構築 ●Scale for Good 	<p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です</p>

第三者意見

2019年3月に日本でも持続可能な社会の実現に向けた取り組み “Scale for Good” を本格的にスタートされ、注力する3本柱を策定され、従来行われてきた対応とともに、SDGsに裏付けられる形で持続可能な社会の実現に向けて取り組んで行かれるとのこと。レポートはわかりやすく書かれていますが、ここまでに至るには大変なご努力があつたものと推察いたします。

日本森林管理協議会（FSC®ジャパン）は持続可能な森林管理を目指しています。紙容器包装類の環境認証にも関わりますが、2018年末でほぼ100% FSC®認証を受けたものを使用されているとのこと。これだけでも相当のことと考えます。

「日本マクドナルドとSDGsの関係」に照らせば、「12.つくる責任・使う責任」、「15.陸の豊かさも守ろう」は勿論のこと、貧困、飢餓、男女平等、安全な水、クリーンなエネルギー、労働環境、気候変動、平和と公正などに関わる目標にも貢献すると考えます。

レストラン企業で、紙容器包装類の認証つまり森林の将来にまで配慮されていることをより多くの人が知り、レストランに集い、地球環境への意識が高まるることを期待いたします。



前澤英士
NPO法人 日本森林管理協議会
(FSC®ジャパン)
事務局長
<https://jp.fsc.org/jp-jp>